

# 「地域とともに歩み続ける」

ハイネス憩の丘

事務・地域支援室

重 富 直 美

斉 藤 京 子

## 【はじめに】

当施設は25年の間、近隣住民とのふれあいを大切に歩んできた。ハイネス憩の丘をとりまく地域の高齢者の比率も高い事から更に連携を深め貢献できる施設でありたいと4年前より講演会・サロンの開催を取り入れたので、ここに報告する。

## 【講演会の実際】

平成27年第1回目の講演会を行った。認知症専門棟を所有していることもあってテーマは「認知症はどんな病気？」とした。施設長より、認知症の病気の種類や症状などの細かい内容の講演が行われ、参加者に興味を持ってもらえた。

29年には認知症を介護する側からの「認知症の介護について」の講演を行った。

昨年には敬老会後にファミリーサロンを開催した。これは、利用者家族と職員がフランクに会話ができ、とても盛り上がり、大きな満足感を提供できたので、今後も継続していく事とした。

今年度の講演は新しい試みとして「先生教えて！」というテーマで近隣の住民に声かけをして7月20日に開催した。内容としては施設内研修で医療や病気に関する事で今更聞けない内容の質問(例えば何故お腹がいっぱいになると眠くなるの?等)を施設長が職員に講義しているもので、これを近隣住民に分かり易く伝えようと始めてみた。

内容を3つのテーマ「脱水はどうして危険なの?」「季節の変わり目は体調が悪くなるのはなぜ?」「認知症にはどのようなものがあるの?」に絞った。いずれも興味ある内容だったようでアンケートでは「とても分かりやすかった」「是非次回も参加したい」との多数の声ももらい、次回の質問のテーマもいただいた。

## 【考察】

講演会・ファミリーサロン共に大盛況の結果となった背景として、近隣住民にとって医師・看護師・介護士など多職種と直にふれあい、会話出来た安心感や満足感が得られたためと考えられる。私達職員にとっても、介護老人保健施設の役割を講演会やサロンを通して身近な言葉で住民の不安や悩みに向き合う施設としてお知らせ出来た。サロンでは職員が直接住民の表情を見て心情を理解し、結果的に業務に反映させる手掛かりとなる。いざという時のために、頼れる施設として住民との交流を継続させることが連携を深める第一歩と考える。

## 【まとめ】

以前よりなじみのある施設「ハイネス憩の丘」として知られていたが、今後も講演会・サロンなどの交流を高齢者の安心できるサービスにつなげ「居心地の良い施設」となるよう努力していきたい。